

「まずは、やってみよう」からのスタート！

～チーム湯の挑戦～

すこやかデイサービス 細野 愛奈
浅野 京子

【はじめに】

開所して3年目が経ち、スタッフも少し成長し、色々考える事ができるようになりました。すこやかデイサービスには、畑はあるが、段差などがあり、湯の利用者様には、利用しにくいのが現状です。「まずは、やってみよう」の気持ちを大切に、畑に取りくもうと、チーム一丸となりました。

【取り組み期間】

2015年10月～2016年8月までの10ヶ月です。

【対象者】

畑に関わることが効果的と思われる利用者様6名です。

【方法】

方法① スタッフが湯の利用者様が「できない」と思った理由は何かを考えました。

方法② 利用者様に「植えて・育てて・収穫し・食す」の過程を大切に野菜作りを行いました。

方法③ スタッフの意識改革

【主な参加者】3名

☆I様 (78歳 男性)・☆U様 (74歳 女性)・
☆K様 (74歳 男性)

【野菜作りの様子】

重度の方でも作業しやすい様に、短い距離で移動ができ水やりがしやすく、日当たりの良い場所、利用者様でも目が行き届きやすく、野菜の成長が見えるテラスを選びました。

・植える作業では、20分前後の短時間で作業を進めました。育てる作業では、作業がしやすいように工夫しました。

収穫・食す作業では、ご自分の手で収穫して頂き、できた喜びが実感できるようにやって頂きました。

【利用者様の変化】

以前よりも意欲の回復につながったと感じます。

【スタッフの変化】

毎日の振り返りをした事で、「出来ないと思っていた事を出来る為には何が必要だろう？」を意識する事でスタッフが1つ1つの行程に自信が持てました。

【結果】

① 昔の記憶再生の喜び

野菜作りの知識を訊いた事で利用者様の昔の趣味や特技を活かす事ができ、役割がもてました。

② 共に生きる喜び

1人が全部の行程ができなくても、1つ1つの行程を分担して他の利用者様やスタッフと一緒に取り組んだ事で、野菜作りが成功できました

【考察】

自分の役割、何かを作り上げる喜びを、共有することでスタッフと利用者様同士の相乗効果が生まれ、私たちスタッフの思いが形となって成功へつながったのだと考えられます。

【まとめ】

できるかどうか、まずは、「やってみよう」からはじまった野菜作り。

いつも以上に利用者様と関わる時間を増やし、寄り添う事を意識しました。

スタッフが熱心に取り組むあまり、利用者様がついて来られなかったり、あまり変化が見られない利用者様がいましたが、利用者様をありのまま受け入れ、その人にとって何が良いのかチームで考えるきっかけになりました。

始めからやれない、出来ないのではなく、やれる為の種を模索しチャレンジすることが最高の種となる！